

【第2会場：4S07教室（5）】

団体名：インターカルト日本語学校

http://www.incul.com/jp/japanese_school/

1977年設立。伝統と実績のある日本語学校です。

インターカルト日本語学校が1977年の設立以来輩出した外国人学生は20,000人以上、日本語教師を目指して日本語教員養成研究所で学んだ受講生は2,000人以上を数え、彼らの多くは今、世界を舞台に活躍しています。

学生は50カ国から、様々な目的をもった様々な人々が集う国際色豊かな学校です。

秋葉原・上野・浅草といった新旧文化が共存する東京下町に位置する校舎では、年間五十数カ国からの留学生が日本語と日本文化を学んでいます。学校での唯一の共通言語は日本語で、「あいうえお」もわからずに来日した学生達が、日本語を習得し日本文化に触れ体験する中で、友達を増やし、活動範囲を広げ、そして未来に向かって巣立って行きます。

日本語学校が地域の一員として、住民と外国人の架け橋になることを目指して活動しています。

2008年の、それまでの東京都心から、住人の15人に1人が外国籍という現在の場所への移転時に、在住の外国人、幼稚園・小中学校、地域のボランティア、行政に歩み寄る形で接点をもったことをきっかけに、翌年、文化庁の日本語教育委託事業に応募、それから6年にわたって事業を継続しています。近年では、他の地域から委託を受けて「ボランティア養成講座」や外国人と接点のある様々な業種の日本人を対象とした「やさしい日本語」の研修等も行っています。

日本語教室に通えない人も、インターネットを使って自宅で講座が受けられる環境を提供しています。

インターネット環境さえあれば、いつでもどこからでも学習できるeラーニングシステムと、ライブ配信で講座を受講できるライブカレッジを開講、国内外の教育機関はもとより企業や公官庁でもすでに日本語能力試験対策講座や機関別のオリジナル講座を、さらにはネット上での日本語教師養成講座を提供しています。これらのシステムを、地域の日本語教育においても、日本語教室が近くにない外国籍の人たちや、日本語指導に興味を持っている日本人の方たちにも利用していただければと思っています。

Japanese for everyone who needs it. -日本語を学びたいすべての人に-

1977年の設立以来、私たちは日本と海外諸国との架け橋になる人材を育成する「日本語教育事業」、真のコミュニケーション能力を引き出す日本語教育のプロを育成する「日本語教員養成事業」、それらを通して、日本語教育を必要とするすべての人、社会のさまざまなニーズに応えてきました。今、そしてこれからも、日本語を必要とするすべての人のために日本語教育の提供と支援を続けていくつもりです。



事業実施概要

事業名称	生活者としての外国人と共に支え合うための日本語教育プロジェクト
地域の課題	台東区の現状に合った日本語教室及び支援体制の整備。 日本人と接点のない地域社会から孤立した外国人の対策。
事業の目的	外国人（学習者としての外国人と、すでに日本社会で生きる外国人）、日本人（日本語指導者と、近隣に住む日本人）、それらすべてが参画する形で成立する「日本語教室」の開設。標準的カリキュラム案の普及を目的とし、地域において中心的担い手となる「人材の養成・育成」、生活者としての外国人のニーズにあった「学習教材」プログラムを作成。
事業の概要	<p>日本語教育の実施</p> <p>名称：生活のための日本語教室 ～日本語を楽しく学ぼう！～ 目的：地域との関係が希薄な外国人の日本語能力を養う。 対象：台東区、または近隣に住む外国人 人数：34 人（主な出身・国籍：インド、中国、台湾、香港、モンゴル、エルサルバドル） 時間：週 1 回× 2 時間（全 38 回） 内容：生活に必要な日本語を学ぶ。（自己紹介、買い物、病院、くすり、移動、防災他）</p>
	<p>日本語教育を行う人材の養成・研修の実施</p> <p>名称：地域指導者のための研修 ～入門編・実践編～ 目的：標準的なカリキュラム案を理解する。学習者を飽きさせない教室運営の工夫をともに考え、学ぶ。 対象：日本語教室の指導員、地域での日本語指導者、日本語教師 時間：8 回×3 時間（全 8 回） 人数：40 人（出身・国籍：日本、中国、インド、フィリピン、ウクライナ、ベラルーシ、モンゴル） 内容：生活する外国人主体の「子育てセミナー」、「インド式数学を学ぶセミナー」の実施。標準的カリキュラム案について、学習者と楽しく学ぶための工夫。</p>
	<p>日本語教育のための学習教材の作成</p> <p>名称：生活する外国人のための教材開発 目的：学習者のニーズ分析を行い、ニーズに合った教材を作成する。 対象：台東区在住の日本語学習者 構成：各種学習は「語彙シート」「会話例」「絵カード」「タスクシート」の 4 種。</p>
	<p>成果と課題</p> <p>前年度は「地域リソース」が十分に活用できていないことが課題となったので、日本語教室では近隣スーパーや防災館へ行く課外活動や台東区保健所との連携企画等を行い、より地域に根付いた教室活動を行うことができた。また、人材養成の一環として「多文化子育てセミナー」「インド式数学セミナー」等を実施したことで、生活者としての外国人が発信する側になるきっかけを作ることができた。今後は、こうした企画・取組を他団体と連携しながら行うことが課題である。</p>
発表者から一言	日本語教室の設置・運営について発表いたします。教室の年間スケジュールや課外活動実施の様子、教室運営における課題等を皆さまと共有できればと思います。平成 25 年度に作成した学習教材（動画教材含む）を持参しますので、作成のポイントや教室での実際の使用例など、ご自由にご質問ください。